

5 成果と課題

本調査研究外国語部会では、PISA 型「読解力」を育成するためには日々どのような授業実践が必要か意見交換を行ってきた。情報の「受信・受容」→「思考・判断・創造」→「発信・提示」という3つの要素を柱に、検証授業を通して今後の教科指導をどのように進めるべきか改めて認識できた。その成果と課題は以下の通りである。

(1) 成果

- ① 中学校段階では「読解力」の基礎となる『習得』を中心とした授業を行う。
中学校に入って学び始める英語学習では、『習得』『活用』『探究』の中で、特に『習得』の部分に時間をかけ、何回も繰り返し練習し使わせ「実践的コミュニケーション能力」の基礎を養うために地道な活動が大切であると確認できた。
- ② 生徒が自発的に意見や考えを述べられるような場面に授業で作る。
単元の終わりなど復習として学習した内容の絵を提示し、生徒にその状況や場面について発表させることで、意見を言ったり考えを述べたりする能力を伸ばせる事例を提示できた。これらの活動が「英語が使えた喜び」につながり、生徒の英語学習への自信や意欲を向上させることが確認できた。
- ③ 「読解力」を向上させるために課題設定の工夫が必要である。
長文読解に取り組ませる際、グループ学習を取り入れパラグラフリーディングを行うことによって生徒一人の読む量が減り抵抗感を無くすことができた。
また、生徒が自ら「読みたくなる」ような内容の長文を与えることで自発的に読解に取り組む事例も提示できた。

(2) 課題

- ① 中学校段階では『習得』の授業を中心とするが、『活用』『探究』を目指した授業展開を更に工夫していく。
- ② 『習得』の基礎練習では個人の練習量を上げることはできたが、『活用』させる部分では生徒の能力の個人差が出てしまい、思うように英語を使わせることができなかった。やりがいのある課題や生徒同士で教え合う温かい学習環境を今後も作る。
- ③ 課題提示を工夫することで生徒の長文読解への抵抗を軽減することができたが、物足りなさを感じる生徒もいるので、実態や能力に応じて選択できるような内容を準備する必要がある。

6 おわりに

他校の実践資料等からも「読解力」が単に英語でいう Reading だけの領域にとどまるのではなく、資料や絵から情報を読みとる力や相手との対話から理解する力も含まれるとあり、本部会では広い範囲での「読解力」と捉えた。最終的に一致したのは、中学校段階では英語学習において PISA 型「読解力」の育成に必要な『習得』、『活用』の部分を中心に学習すべきである（『探究』への入口につなげる）という結論に達した。近年、生徒は「自分の意見を言うのが苦手」とよく言われる。①基礎力を付ける学習の継続、②活用（発表）する場面の設定、③自分の考えや情報を英語でまとめる（書く）力の育成を生徒を飽きさせない魅力ある授業で実践していくことにより PISA 型「読解力」の育成につなげていきたい。